

# 政治の転換期を迎えた香港： 2016年の香港立法会選挙についての一考察

合 田 美 穂

## A Transitional Phase in Hong Kong's Politics: An Investigation of the Election of the Hong Kong Legislative Council in 2016

GODA Miho

**Abstract** : In order to understand Hong Kong, we must realize that Hong Kong is in a transitional phase in politics. Heretofore, Hong Kong political camps were divided into pro-China and pan-democracy. Now, the third camp, the localists who advocate self-determination, came to steal the spotlight. The election of the Legislative Council conducted on 4 September 2016 marked a major change in Hong Kong political landscape. The aim of this paper is to understand the new trend in Hong Kong through the election.

**要約** : 現在、香港への理解を深めるためには、香港の政治環境が転換期を迎えていることに着目する必要がある。従来の香港の政治は、「親中派」と「民主派」の2大勢力が対立するという構図であったが、従来の「民主派」とは異なる「本土派」や、香港の自決権を主張する「自決派」という新しい思想を持つ政党が出現した。2016年9月4日に実施された香港立法会選挙の結果は、香港の政治環境の大きな変化を示す結果となった。このたびの立法会選挙の結果を通して、近年における香港社会の動きを読み解くことが本稿のねらいである。

### 1. はじめに

近年、日本で注目された香港関連のニュースといえば、2015年の10月から12月にかけて、中国共産党やその関係者に対して批判的な書籍を扱っていた銅鑼湾書店の5名の関係者が、中国、タイ、香港において相次いで失踪した事件だろう<sup>1)</sup>。5人の失踪については、中国当局の関与が強く疑われている。その前年の2014年の9月以降の「オキュパイ・セントラル（セントラル占拠行動）」<sup>2)</sup>および「雨傘運動（雨傘革命）」<sup>3)</sup>についての報道も、記

1) 「香港禁書店老老闆 被消失奇案」, 『端传媒』: <https://theinitium.com/article/20151110-hongkong-hkbooksellers/>

2) 正式名称は「讓愛與和平占領中環（英語は Occupy Central with Love and Peace）」, 略して「和平占中」, 「占領中環」, 「占中」などと呼称されている。この市民運動は、香港大学戴耀廷副教授、香港中文大學陳健民副教授、キリスト教の朱耀明牧師によって2013年初旬に計画が始まり、2014年9月28日より香港において発動された。その目的は、「行政長官と立法会の普通選挙の実現」である。（「香港全民投票與占領中環（特企）」, 『中央社』, 2014年6月21日: <http://www.cna.com.tw/news/firstnews/201406215001-1.aspx>）

立法会（香港特別行政区立法会）とは、中華人民共和国香港特別行政区の立法機関であり、香港基本法（中華人民共和国香港特別行政区基本法）に基づき設置されている。立法会の現在の定員は70名で、うち35名は直接選挙、35名は職能別団体選挙で選出。任期は4年。（「香港基礎データ（外務省ホームページ）」: <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hongkong/data.html#02>）

なお、現在、立法会は、香港住民の普通選挙（直接選挙枠）によって選出された議員と、間接選挙（職能別選挙枠で、親中派が大半を占めていると考えてもいい）によって選出された議員によって構成されている。立法会はまた、行政長官を選出することはできない。

3) 「雨傘運動（英語は Umbrella Movement）」は、「雨傘革命（英語は Umbrella Revolution）」または「占領行動（英語は

憶に新しい人が多いはずだ。「オキュパイ・セントラル」および「雨傘運動」は、多くの香港人（特に若い世代）を動かすことになったものの、彼らが望んだ選挙の民主化を勝ち取ることはできなかった。だが、毎年 7 月 1 日の香港返還記念日には、民主化を支持する市民を中心に、中央政府や行政長官に対する抗議デモが実施される。その様子は日本のメディアでも報道されているが、近年デモ参加者数が増加していることも印象深い。

これら一連の報道から、日本人が一般的に受ける印象は、「中国の中央政府の力が大きくなり、香港の自由が侵食されつつある」、「親中派である香港政府（行政長官）に対する市民の不満が、一連の抗議行動につながっている」といったものであろう<sup>4)</sup>。実際に、「オキュパイ・セントラル」と「雨傘運動」に関していえば、香港の政治を変えたいと願う市民が中心となって参加した運動であった。香港中文大学による民意調査では、推計で合計 120 万人もの市民が「雨傘運動」に参加したとされている<sup>5)</sup>。

現在、香港への理解を深めるためには、香港の政治環境が転換期を迎えていることに着目する必要がある。従来の香港の政治は、「親中派（建制派）」<sup>6)</sup>と「反親中派（民主派）」<sup>7)</sup>の 2 大勢力が対立するという構図であったが、従来の「反親中派」とは異なる、中国大陸と一線を引くことを主張する「本土派」や、香港の自決権を主張する「自決派」という新しい思想を持つ政党が出現した（これら両派の詳細については、「2 の (2)」を参照）。折しも、2016 年 9 月 4 日に実施された香港立法会選挙の結果は、香港の政治環境の大きな変化を示す結果となった。このたびの立法会選挙の結果を通して、近年における香港社会の動きを読み解くことが本稿のねらいである。

なお、本稿は、本稿は、東京財団の「Views on China」への寄稿文（「香港社会の動きを読み解く - 香港立法会選挙の結果を中心に」<sup>8)</sup>）をもとにして、筆者が、インタビュー、補足説明や具体事例などを加筆したものである。

## 2. 政治の転換期を迎えた香港

「オキュパイ・セントラル」、「雨傘運動」後、これまであまり政治に強い関心を抱いていなかった多くの香港市民（特に若者）が、香港の政治に関心を持つようになったと筆者は実感している。筆者の勤務する大学でも、「雨傘運動」のために授業をボイコットする学生が後を絶たず、これまで香港政治に関心を持っていないように感じられた 30 代の知人たちも、雨傘運動を支援するための「黄色のリボン」をバッグにつけたり、携帯電話の待ち受

- Occupation Movement) とも呼称され、2014 年 9 月 26 日から 12 月 15 日まで香港各地（金鐘、中環、灣仔、銅鑼灣、旺角や尖沙咀など）の主要道路などにて、学生を中心とする市民が座り込みやデモなどを行い、行政長官と立法会の普通選挙の実現を訴えた運動である。デモの参加者は、警察による催涙スプレーなどを防ぐために雨傘を使用していたことから、メディアが「雨傘運動」や「雨傘革命」と呼称するようになった。（「和平占中黄之鋒指 20 萬人占領交通樞紐創造奇蹟」、『蘋果日報』、2014 年 12 月 2 日：<http://hk.apple.nextmedia.com/realtime/news/20141002/52971933>、および「八大院校 6,000 人罷課集会」、『蘋果日報』、2014 年 9 月 30 日：<http://hk.apple.nextmedia.com/news/art/20140930/18884515>）
- 「オキュパイ・セントラル」は、市民運動であり、金融の中心地であるセントラルを占拠することを通して、一方、「雨傘運動」は、学生が中心となって、授業のボイコットという形を通して、ともに普通選挙の実現を訴えていた。両者の主導者は異なっていたものの、開始時期や目的、そして参加者が重なっていたために、現場においては両者の区別はつけがなかった。両者の相違については、以下に詳しい。（「戴耀廷：雨傘運動出現已替代了占中」、『蘋果日報』、2014 年 12 月 2 日：<http://hk.apple.nextmedia.com/realtime/news/20141202/53188478>）
- 4) 2016 年 10 月 5 日、「雨傘運動」の元リーダーである黄之鋒氏が、渡航先のタイの空港で拘束され、香港に送還された。タイのプラユット首相は「中国当局の要請に応じた」と述べた一方で、入管職員は、入境条例第 12.7 条（公衆に危険をもたらす、国家の安全に脅威を与える、他の国で指名手配を受けている者はいずれも入境を拒否されるという内容）に従ったと説明している。いずれにしても、これもまた、中国政府の香港への影響を感じさせられた 1 件であった。
  - 5) 「中大民調推算 120 萬人 曾參與占領運動逾半市民指政府應就政改具體讓步」、『蘋果日報』、2014 年 12 月 19 日：<http://hk.apple.nextmedia.com/news/art/20141219/18974592>
  - 6) 中国語の「建制」は「制度」と似た意味を持ち、「建制派」は直訳すれば「体制派」、つまり「親政府派」である。返還前は、民主派に対抗する勢力として、北京に政治的に忠誠を捧げる左派と、英国・香港政府と協力する財界中心の保守派が存在していたが、返還後の香港では、保守派は北京の中央政府や香港の特区政府との関係を重視する立場のために、左派と保守派の境界が曖昧になり、民主派以外の勢力を総称して「建制派」と呼ぶ習慣が定着した。代表的な政党には、「民建聯」、「工聯会」などがある。（倉田徹「香港政治キーワード解説「建制派」（体制派、親政府派）」、『香港ポスト』、2011 年 7 月 29 日：<http://www.hkpost.com.hk/index2.php?id=1959#.WB15II9OLIU>）
  - 7) 「反親中派（民主派）」は、中央政府の香港自治方針に反発する勢力で、「親中派」と対立している。代表的な政党には、「民主党」、「公民党」などがある。「反親中派（民主派）」は、中央政府の香港自治方針に反発しているという点では、共通しているものの、「普通選挙の全面的な実施、一国二制度の厳守、天安門事件に対する再評価の要求などを重視（民主党）」、「普通選挙の全面的な実施を目標とするが、天安門事件への再評価を含めて香港とは直接関係のない問題についての議論は行わない（公民党）」など、それぞれのポリシーは異なる。
  - 8) 合田美穂「香港社会の動きを読み解く - 香港立法会選挙の結果を中心に」、『Views on China』東京財団：<http://www.tkfid.or.jp/research/china/e9mi6k>

け画面に設定したりしていた。それから2年後の今回の立法会選挙では、投票数ならびに投票率が過去最高を記録し、「雨傘運動」のリーダーであった人物も議員として当選した。香港の政治は、まさに今、香港の民意を反映して転換期を迎えていると言える。

### (1) 塗り替えられた立法会選挙の記録、進む政治の世代交代

今回の立法会選挙では、いくつかの記録が塗り替えられた。候補者数が過去最高の154名となったこと、投票者数が過去最高の220万人に達したこと、投票率が過去最高の58%となったことである<sup>9)</sup>。

今回の選挙では、「親中派」は70議席のうち40議席を獲得、前回の選挙から3議席を失った。一方、「反親中派」は合計30議席を獲得した。「反親中派」の比率は、過去3回の立法会選挙の中では最も高いものとなった<sup>10)</sup>。「反親中派」内で、新たに出現した「本土派」および「自決派」が票を集めたことから、「反親中派」の有効票が分散したことも今回の選挙の特徴だといわれている。

また、今回の選挙では、男女ともに史上最年少の立法議員が誕生した。前者は23歳の羅冠聰氏である<sup>11)</sup>。羅氏は中国大陸生まれで、「自決派」の政党「香港衆志」<sup>12)</sup>の主席である。後者は25歳の游蕙禎氏である。游氏は香港生まれで、「本土派」の政党「青年新政」<sup>13)</sup>のメンバーである<sup>14)</sup>。後者の「青年新政」は現在、百人余りのメンバーを有し、その大部分が20代から30歳にかけての若い社会人である<sup>15)</sup>。

今回の選挙では、李卓人氏（工党）、馮檢基氏（民協）、劉慧卿氏および何俊仁氏（ともに民主党）、陳偉業氏（人民力量）といった、植民地時代において初の直接選挙を勝ち取り、青年議員として政治の世界に飛び込んだ人々の引退や落選が目立った。それにより、世代交代と新たな時代を印象付けた選挙であったと、香港中文大学の小出雅生兼任講師は述べている<sup>16)</sup>。

25年間、立法議員を務め、今回の選挙前に引退を表明した民主党主席の劉慧卿氏もまた、「今回の選挙は、民主党にとって容易なものではなかった。立法会は、新旧交代の段階に入っている。過激な本土派が出現し、政治のスペクトルが分散したことが、これまでの政党政治に大きな衝撃を与えた。民主党は、結果的に7議席を獲得することができ、立法会の反中勢力の中では最大政党となっはいるものの、世代交代は明らかである。今回の民主党候補者8名の平均年齢は42.8歳であり、前回の平均年齢であった52.8歳を10歳も下回った」と、香港政治が世代交代を迎えたことを強調している<sup>17)</sup>。

### (2) 「本土派」および「自決派」とは

今回の選挙における最大の変化は、香港の自決を主張する「本土派（熱血公民、青年新政）」および「自決派（香港衆志、土地正義聯盟、小麗民主教室）」から、合計6名が選出されたことである。彼らの中には、香港独立を主張する候補者も含まれている。

9) 紀頌鳴「香港社会的政治格局」、『超訊』、2016年10月、3頁。

10) 陳立諾「梁振英連任失敗 換曾俊華做特首?」、『超訊』、2016年10月、26頁。

11) 羅氏についていえば、香港では以前から知名度は高かった。「愛国教育反対運動」から「学民思潮」を結成し、「雨傘運動」を経て、「香港衆志」から香港島選挙区で出馬した。羅氏の得票数は約5万票、得票率でも13.49%で、「親中派」の民建聯や工聯會をも上回った。（小出雅生「香港立法会選挙を振り返って」、『人民新聞』（1595号）、2016年10月5日）

12) 「香港衆志」は、2016年4月に成立した政党であり、中心メンバーの多くが、過去に「反国民教育運動」や「雨傘運動」といった運動で主導的な役割を果たしてきたメンバーである。「香港衆志」は、2047年に一国二制度が満期を迎える前に、普通選挙の実施を実現し、香港の主権と政体を香港人の手によって「自決」することを目標としている。党の4大ポリシーは、「自発、自主、自決、自立」である。「香港衆志ホームページ」：<https://www.demosisto.hk/>

13) 「青年新政」は、2015年に成立した政党である。「雨傘運動」終盤に、「青年新政」の発起人である梁頌恒氏が、「雨傘運動」をこのまま終わらせてはいけなくと強く感じ、志を同じくする者たちに声をかけ、成立させた政治組織である。メンバーの多くが「雨傘運動」の現場での知り合いではなかったところが興味深い。現段階では、「青年新政」は、「本土派」を代表する政党であり、香港の「自決」を主張し、「中国化」に強く反対している。（「專訪青年新政：我們要重奪香港人的資源」、『852郵報』、2015年4月4日：<http://www.post852.com/92615/%e5%b0%88%e8%aa%e9%9d%92%e5%b9%b4%e6%96%b0%e6%94%b1%ef%bc%9a%e6%88%91%e5%80%91%e8%a6%81%e9%87%8d%e5%a5%aa%e9%a6%99%e6%b8%af%e4%ba%ba%e7%9a%84%e8%b3%87%e6%ba%90/>、「青年新政ホームページ」：<http://youngspiration.hk/>）

14) 陳立諾「梁振英連任失敗 換曾俊華做特首?」、『超訊』、2016年10月、27頁。

15) 同上。

16) 小出雅生「香港立法会選挙を振り返って」、『人民新聞』（1595号）、2016年10月5日。

17) 紀頌鳴、王亞娟「專訪：民主党主席劉慧卿 希望北京願守一国兩制的承諾」、『超訊』、2016年10月、22-23頁。

ここで、「民主派」、「本土派」、「自決派」の相違について言及しておきたい。まず、「本土派」についていえば、「本土」は中国本土を指すのではなく、香港を指している<sup>18)</sup>。彼らは、香港のことだけを考え、香港の権益を守るために行動することを最優先にしており、中には香港独立を主張する者もいる。立教大学の倉田徹准教授は、「本土派」のメンバーは、主流の「民主派」と自分たちとは異なることを明確に表明しているだけではなく、「民主派」のことを「偽民主派」として非難していると指摘している。「本土派」からすれば、「一国二制度」の下で中央政府に妥協している「民主派」は、「偽民主派」なのである<sup>19)</sup>。

上海国際問題研究院台港澳研究所の張建研究員によると、以前は、中央政府は「民主派」こそが反対勢力であるとみなしていたが、今回の選挙以降は、「本土派」が本当の意味での反対勢力であるみなすようになった。「民主派」は、少なくとも「一国二制度」を支持しており、香港独立や香港自決といった主張をしていないからである<sup>20)</sup>。

「民主党」の劉慧卿氏は、「香港人には、一国一制度は不要だ。香港独立なんてなおさら賛成できない。一国二制度こそが唯一の選択だ」と述べ、香港独立を支持する考え方に対して否定的な態度を示し、「民主派」と「本土派」が異なることを強調している<sup>21)</sup>。

次に、「自決派」は、「本土派」と同様に、香港のことは香港人自らが決定するというポリシーを唱えている。とはいえ、排外的ではなく、また独立を主張するのでもなく、香港の権益を守るためには、必要ならば「親中派」や他の「反親中派」と協力しあうことも可能であるという考えを有している。

今回の選挙で、「自決派」を代表する人物として注目を集めた朱凱迪氏のトップ当選(8万4千票あまり、第2位当選者に1万4千票も差をつけた)は、特筆すべきことであろう。朱氏は、地元の中立紙『明報』の元記者で、利東街保存運動、クイーンズピア保存運動、高速鉄道立ち退き反対運動など、返還後の香港での社会運動の中でも、街づくりと農業にこだわってきた人物である。高速鉄道建設に伴う農家の移転問題では、土地収用を都合よく利用しようとする開発業者、それに結託する、新界地区が植民地になる前から土地を所有する地主の一族ら、そしてその背後にいる暴力団を批判してきた。地元の「食と農」にこだわり、土地は金儲けのためではなく、そこに暮らす全ての人のためのものだと主張に基づき、街づくり運動から発展した市民のネットワークが支援母体になったことから、支持を伸ばした。また、新界の地主と暴力団とのつながり、郷議局などの既得利益団体や鉄道など独占企業体への批判を通して、その談合政治のようなやり方を快く思っていない人たちからも、旧来の民主派の枠を超えた支持や関心を集めた。一方、既得権を持つ者は朱氏の当選に不満を持ち、当選後、朱氏は数々の脅迫を受けた。それについてはメディアでも大きく報道され、注目を集めた<sup>22)</sup>。

「本土派」および「自決派」の主張の特徴は、香港人が自らの運命を自らの手によって決めることの重要性を訴えている点であり、中央政府に対して民主化を訴えることを目的としている「民主派」とは大きく異なっている。

### (3) 「本土派」および「自決派」出現の背景

「本土派」および「自決派」の出現の背景には、2年前の「オキュパイ・セントラル」と「雨傘運動」がある。その街頭デモや集会を通して、若い世代を中心に香港独立を主張する人たちが数多く出現するようになった。その中から、立法会選挙に立候補を表明する者が多く出現した。

現在の香港における政治環境の悪化について、民主党の劉慧卿氏は、「自決や独立を主張する人々が出現する状況は、まさしく香港政府によって作り出されたものである。梁振英行政長官への不満によるところが大きい」と

18) 香港中文大学の小出雅生兼任講師によると、香港メディアでは、「本土派」は排外的(反中)であることから、「排外本土派」と呼称されることも多いという。「本土派」の支持者の中には、多くの MTR 東鉄線(旧 KCR)沿線の住民が含まれている。中国からの買い出し客が、主に利用する交通手段が、MTR 東鉄線であり、彼らが買い出しや買い占めに使用しているスーツケースなどの大型荷物が、通勤や通学の邪魔になっていること、沿線で日用品が品薄になっていることなどから、彼らに不満を抱く沿線住民が、「中国」と距離を置くことを主張する「本土派」を支持する傾向が強い。(小出雅生氏に対する聞き取り。2016年10月14日、香港中文大学にて。)

19) 倉田徹「民主派、内部分裂の危機「真の民主派」主張する急進派」、『香港ポスト』、2014年7月4日：<http://www.hkpost.com.hk/index2.php?id=9325#V-4cEjLTIV>

20) 李永峰、秦寬「專訪：上海国際問題研究院台港澳研究所研究員張建 本土派才是香港真正的反对派」、『超訊』、2016年10月、20頁。

21) 紀碩鳴、王亞娟「專訪：民主党主席劉慧卿 希望北京順守一国兩制的承諾」、『超訊』、2016年10月、23頁。

22) 小出雅生「香港立法会選挙を振り返って」、『人民新聞』(1595号)、2016年10月5日。

断言している<sup>23)</sup>。ジャーナリストの李永峰氏は、「もし、4年前の選挙時に、香港で自決や香港独立を主張する人が出てきても、香港人にとっては他人事のような話であり、興味を持つ者も多くはいなかったはずだ。しかし、この短い4年間で、「本土派」や「自決派」または香港独立を声高く主張する者が次々と出現し、議会にまで入るようになったことは、香港政治の天地を覆すような変化である」と述べている<sup>24)</sup>。

#### (4) 「親中派」と「中央政府」の動き

立法会選挙前、香港政府は基本法<sup>25)</sup>を守るという承諾書へのサインを求めることによって、一部の香港独立主張者の立候補を阻止することに成功したものの、すべての「本土派」と「自決派」の候補者を排除することはできなかった。

選挙後、立法会では、議会運営が困難になる局面が出現した。選挙後の10月12日の就任宣誓式で、「反親中派」の5名の議員（梁頌恒氏、游慧禎氏、姚松炎氏、劉小麗氏、黄定光氏）が、就任宣誓を適切に行わなかったとして問題となった。特に、梁氏と游氏は、「Hong Kong is not China」と表示された布を身にまったり、広げたりして、香港独立を支持すると受け取られてもおかしくない行動に出たり、英語の宣誓文で、「China」を「シナ」と発音した。それらに加えて、游氏は、「Republic」を「Re-fxxking」と入れ替えて読んだ<sup>26)</sup>。宣誓は無効であるとみなされただけでなく、特に、「シナ」問題については、翌日、香港政府によって彼らを譴責する声明が出された。また、「親中派」政党からも批判を浴びた<sup>27)</sup>。10月19日に、5名の再宣誓が予定されていたが、黄氏と姚氏の再宣誓の後、「親中派」の議員が集団で退出したことから、他の3名による再宣誓は実現できなかった<sup>28)</sup>。「親中派」からは、基本法にある「宣誓および声明条例」に違反しているため、そもそもやり直しをする必要もなく、議員資格を取り消すべきだとの声が強く出た<sup>29)</sup>。

宣誓問題（特に梁氏と游氏の「シナ発言」について）は、10月12日以降、連日メディアで大きく報道され、特に「親中派」として知られる新聞では、多くの団体（主に同郷団体、地域団体、職業団体）や個人からの抗議文の掲載が後を絶たなかった。こういった一連の報道について、香港中文大学の小出雅生兼任講師は、「本土派」からの当選者、特に梁氏と游氏の言動に対しては、中央政府がすぐに制裁に乗り出したり、何らかの対処を講じようとしたりすることはなく、むしろ、メディアで大きく報道することによって、彼らに対するマイナスイメージを香港社会に植え付けよう、つまり、彼らをいいように利用しようとしているのではないかと示唆した<sup>30)</sup>。上海国際問題研究院台港澳研究所の張建研究員もまた、中央政府は直接強硬姿勢に出ずに、香港政府自身が香港独立という問題を処理することを期待しているはずだと述べた<sup>31)</sup>。

23) 紀碩鳴、王亞娟「專訪：民主黨主席劉慧卿 希望北京順守一國兩制的承諾」、『超訊』、2016年10月、23頁。

立教大学の倉田徹准教授からは、市民の間では、政府ならびに行政長官への不満のみならず、既存メディアに対する不信感も広まっていることが指摘されている。かつて中立的または右寄りと言われてきた多くの新聞が、親中の論調へと転じており、こういった変化に対して不満を持つ市民が、情報源としてネットを重視するようになってきている。（倉田徹「デモ・集会の参加者数が増加 ネット動員で集まる若者たち」、『香港ポスト』、2013年12月6日：<http://www.hkpost.com.hk/index2.php?id=7711#WAXmp49OLIX>）

香港中文大学の小出雅生兼任講師は、香港の選挙戦では、各テレビ局などが主催する討論会で候補者が激しく意見を戦わせ、そこでの発言が選挙戦に大きな影響を与えるという特徴を挙げている。今回の選挙でも「雨傘運動」時の警察とぶつかり合う場面に対する記憶からか、選挙戦開始には低い支持率だった「本土派」や「自決派」が終盤で支持率を大きく伸ばした。（小出雅生「香港立法会選挙を振り返って」、『人民新聞』（1595号）、2016年10月5日）

24) 李永峰「本土 自決 港独 香港政治新一頁 会重踏西藏覆轍？」、『超訊』、2016年10月、15頁。

25) 「中華人民共和国香港特別行政区基本法」は、香港特別行政区に「高度な自治」を認め（第2条）、社会主義制度と政策を実行せず、従来の資本主義制度と生活方式を維持し、50年間変えない（第5条）等と定めている。（「香港基礎データ（外務省ホームページ）」：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hongkong/data.html#02>）

26) 「激進派爆粗宣誓」、『頭條日報』、2016年9月14日。

27) 「梁君彦：宣誓無効 禁止開会」、『頭條日報』、2016年9月14日。「梁君彦放生梁游激公憤」、『大公報』、2016年10月19日。

28) 「建制派離場抗假誓」、『大公報』、2016年10月20日。

また、「反親中派」の鄭松泰議員が、同日の議会の途中で、中華人民共和国旗と香港特別行政区旗を逆さにするという行動に出ており、「親中派」議員からは「国旗法」に違反するという指摘も上がった。（「鄭松泰倒插国旗区旗 劉国勳促警調查」、『大公報』、2016年10月20日）

29) 「親中派」は、特に、梁頌恒氏、游慧禎氏、姚松炎氏、劉小麗氏の4氏に対して、宣誓は無効であると強く表明していた。「違《基本法》乃大是大非問題 林鄭反对梁游再宣言」、『頭條日報』、2016年10月24日。「建制派：不容四丑再宣誓」、『大公報』、2016年10月19日。

30) 小出雅生氏に対する聞き取り。（2016年10月14日、香港中文大学にて。）

31) 李永峰、秦寬「專訪：上海国際問題研究院台港澳研究所研究員張建 本土派才是香港真正的反对派」、『超訊』、2016年10月、21頁。

その一方で、ジャーナリストの李永峰氏は、香港独立の議論が出てからは、中央の香港に対する介入も増えることになるはずだと予測し<sup>32)</sup>、民主党の劉慧卿氏もまた、「将来、北京がさらに強硬になったら、ますます多くの人が独立を支持し、おそらく暴力行為（議会内の衝突や、街頭での抗争など）も比例して多くなるだろう」と述べ、中央の介入を強く警戒した<sup>33)</sup>。

その後、中央政府の動きは、李永峰氏と劉慧卿氏の予測通りの展開となった。香港特区政府律政司は、10月18日、「不適切な宣誓によって、梁頌恒氏および游蕙禎氏にはすでに議員資格がない」として、香港高等法院に対して審議を申し立て、11月3日から審議が開始された<sup>34)</sup>。その審議中の11月7日、中国の全人代（全国人民代表大会）の常務委員会が、両氏の資格を否定する香港基本法についての解釈を示した<sup>35)</sup>。それを受けて、11月15日、高等法院は、両氏は香港基本法に定められた宣誓を適切に行わなかったと指摘し、宣誓が行われた10月12日に遡り、議員資格を取り消すと判断した<sup>36)</sup>。高等法院は、両氏の就任宣誓が無効であるだけでなく、やり直しはできないとも示している<sup>37)</sup>。現段階で、両氏は異議申し立てを表明している<sup>38)</sup>。

「親中派」は、今回の立法会選挙において、70議席中40議席を獲得した。依然として過半数を確保、議案を否決できる定数を維持し、立法会での主導権を保っている<sup>39)</sup>。強大な組織力を発揮して89万票を獲得し、安定した支持率を維持することができているほか、親中メディアにおける影響力を保ち、世論に影響を与えることも可能である。香港中文大学の小出雅生兼任講師は、「親中派」の安定した支持率の要因として、「親中派」は懇意にしている支持者に動員をかけ、だれに何票入れるように指示することによって、最低得票数で死票が少なくなっていることを挙げている。しかしながら、今回の選挙では、「親中派」によって大物議員である王國興氏（工聯会）が担ぎ出されたが、落選している<sup>40)</sup>。

今回の選挙では、「親中派」に対する若い世代の投票率は極めて低かったといわれている<sup>41)</sup>。「親中派」が懇意にしている支持者の中には、同郷団体、宗親団体、商業団体なども含まれている。筆者が過去に実施した調査によると、こういった「親中派」の団体の多くは、若い世代のメンバーが少ないことが共通点として挙げられる<sup>42)</sup>。更に、今回の議員2人の議員資格の取り消しによって、彼らを支持していた若い世代の、中央政府や「親中派」に対する反発は避けられなくなるだろう。このまま若い世代の支持を失い続ければ、将来の立法会の構図が大きく変わることは間違いないと言える。

##### (5) 深まる香港社会の亀裂

「本土派」の梁頌恒氏および游蕙禎氏の宣誓問題について、全人代による法解釈が行われることになったことにより、11月6日には、「反親中派」の市民（主催者発表で約1万人）による大規模な「法解釈に対する抗議デモ」が実施された。また、香港中文大学では、11月17日の午前中に行われた卒業式において、国歌が流された際に、約20人の学生が、「民主自由、人大釈法（全人大の法解釈）、三権分立、法治公道」のスローガンおよび梁振英行政長官の肖像を持ち上げて、その場で引き裂き、中央政府の法解釈に抗議を示した<sup>43)</sup>。

32) 「本土 自決 港独 香港政治新一頁 会重踏西藏覆轍?」, 『超訊』, 2016年10月, 15頁。

33) 紀碩鳴, 王亞娟「專訪: 民主黨主席劉慧卿 希望北京順守一國兩制的承諾」, 『超訊』, 2016年10月, 25頁。

34) 「法律行動無損行政立法關係」, 『香港政府新聞網』, 2016年10月19日: [http://www.news.gov.hk/tc/categories/admin/html/2016/10/20161019\\_130810.shtml](http://www.news.gov.hk/tc/categories/admin/html/2016/10/20161019_130810.shtml)

「香港宣誓風波: 官媒讚褻奪梁頌恒游蕙禎議席「庄邪氣」」, 『BBC 中文網』: 2016年11月16日: [http://www.bbc.com/zhongwen/trad/china/2016/11/161116\\_hongkong\\_legislature\\_row](http://www.bbc.com/zhongwen/trad/china/2016/11/161116_hongkong_legislature_row)

35) 「中国人大釈法: 無効宣誓不得重新安排宣誓」, 『BBC 中文網』, 2016年11月7日: [http://www.bbc.com/zhongwen/trad/china/2016/11/161107\\_hk\\_oath\\_npc\\_interpretation](http://www.bbc.com/zhongwen/trad/china/2016/11/161107_hk_oath_npc_interpretation)

36) 香港基本法により、常務委の判断は香港の法院、政府、立法会に対して拘束力がある。（「人大釈法属本港法制重要部分」, 『香港政府新聞網』, 2016年11月5日: [http://www.news.gov.hk/tc/categories/admin/html/2016/11/20161105\\_181329.shtml](http://www.news.gov.hk/tc/categories/admin/html/2016/11/20161105_181329.shtml)）

37) 「香港高等法院: 兩名辱國候任議員宣誓無效資格取消」, 『人民網』, 2016年11月16日: <http://bj.people.com.cn/BIG5/n2/2016/11/16/c233086-29314932.html>

38) 「香港高等法院裁定梁頌恒, 游蕙禎喪失議員資格, 兩人決定就裁決上訴」, 『端傳媒』, 2016年11月15日: <https://theinitium.com/article/20161115-dailynews-oath-taking/>

39) 李永峰「本土 自決 港独 香港政治新一頁 会重踏西藏覆轍?」, 『超訊』, 2016年10月, 15頁。

40) 小出雅生「香港立法会選挙を振り返って」, 『人民新聞』(1595号), 2016年10月5日。

41) 陳立諾「梁振英連任失敗 換曾俊華做特首?」, 『超訊』, 2016年10月, 27頁。

42) 合田美穂「新加坡及香港的福建社團及其教育事業的比較研究」, 新加坡亞洲研究学会『亞洲文化』第31期, 2007年6月。

43) 筆者の「RTHK 香港電台ニュース」(2016年11月17日)の視聴による。

筆者が聞き取りを行った学生（20代、女性）は、「2人の宣誓に法的な問題があったとしても、香港人が直接選んだ議員であるということをおぼえてはいけない。香港人が選んだ議員なのだから、香港人が彼らの去就についての決断を下すべきだ。中央政府が介入すべきではない。」と、中央政府の法解釈に不満を表した。また、別の学生（20代、女性）は、「香港人の社会福祉や教育を含めた生活の向上のために一生懸命働いてくれている政党や議員であるならば、本土派であろうが、親中派であろうが、私にとってはあまり重要ではない。香港人の権益を守ってくれる政党や候補者に投票したい。そういう対象に香港人が投票するのは自然な流れだと思うし、今回の選挙の結果ではそれが示されたと感じる」と話した<sup>44)</sup>。

中央政府の介入を非難する声が聞かれる一方で、11月13日には、「親中派」の市民（主催者発表で約4万人）が、立法会の周辺で、法解釈を支持する集会を行い、その数は6日の「反親中派」の数を上回った。また、一部のメディアでは、議員2名の資格取り消しが発表されたことを祝して割引や無料サービスを行う飲食店の様子が大きく紹介された<sup>45)</sup>。また、今回の就任宣誓をめぐることは、タクシー運転手による団体である「的士司機従業員総会」の鄭玉佳代表が他の8人の「反親中派」の議員について<sup>46)</sup>、また、「親中派」の市民グループ「愛港之声」の代表が他の11人の議員について、それぞれ、適切な就任申請を行わなかったとして高等法院に司法審査を求めており、今回の法解釈がそれらにも影響する可能性が出てきている<sup>47)</sup>。

市民社会だけではなく、法律界でも分裂が生じている。11月8日、全人代の介入は香港の司法の独立を損なうとして、郭榮鏗弁護士（反親中派議員）が発起人となり、法解釈に反対する弁護士らが、黒色の衣服を着用して、沈黙デモ行進を行い、その参加者は約2千人に上った。その一方で、何君堯弁護士（親中派議員）は、黒服デモの弁護士らの主張を批判し、香港大学の陳弘毅教授もまた、全人代の法解釈は香港の法律をより明確にするものであると主張した<sup>48)</sup>。中央政府の香港司法への介入に反対する「反親中派」と、それを支持する「親中派」の亀裂が、今回の宣誓問題についての法解釈をきっかけにますます深まっていくことは必至であろう。

香港大学が毎年実施している民意調査によると、「2009年以降、若者の香港人意識が年を追うごとに高まりをみせる一方で、中国人意識が年々低下している」という結果が示されている。2015年は、「香港人意識」を有する若者が50%を超え、「中国人意識」を有する者は10%台に落ち込んだ<sup>49)</sup>。

香港人が、香港人としてのアイデンティティを高める一方、香港から海外への移民も増加している。例えば、香港保良局によると、2013年に、7千6百人の香港人が海外に移民しており、2011年に比べると26.2%増加している<sup>50)</sup>。香港政府統計局によると、2015年月中旬から2016年月中旬にかけて、1.89万人の香港人が海外に移民している。香港の2016年月中旬の総人口が734.67万人であることから、単純に計算すると、この1年間に約4百人に1人が移民したことになる。

また、独立調査機関である香港公共政策智库思匯政策研究所が実施した最近の調査によると、調査対象者である千5百人の香港人のうち、70%が香港での生活に不満を抱いており、中でも若者の不満が最も高いという。香港城市大学の鄭宇碩元教授は、香港人の移民傾向に関して、「多くの若者は香港以外で成功する機会を持ちたいと考えているが、その背景には経済的な要因がある。現在の香港は就職や発展の機会が少なく、生活費も高い。更に、ここ2年ほどは北京政府からの影響が大きく、それによって香港の民主化が困難になっていることや、人権を侵害する事件が発生している。こうした事由により、若者を中心に香港を離れたいという感情が生じている」と分析している<sup>51)</sup>。

香港人意識の高まりと移民傾向の高まりは、一見して矛盾しているように感じられるが、それらの根底には、同じ要因が存在しており、両者は決して矛盾していないと筆者は考えている。中央への不満が強くなればなるほ

44) 香港中文大学の学生2人（匿名希望）に対する聞き取り。（2016年11月8日、香港中文大学にて。）

45) 「梁游玩完 車仔麵店贈興」、『頭條日報』、2016年11月17日。

46) 「的總代表申覆核 促撤八議員資格」、『星島日報』、2016年11月11日。

47) 「市民提覆核 11議員反誓」、『大公報』、2016年11月15日。

48) 「人大釈法途絶港独勢力」、『星洲週刊』、2016年11月20日。

49) 香港大学民意調査計画：<https://www.hkpop.hku.hk/chinese/popexpress/ethnic/>

50) 「香港再現移民潮 港人走為上策？」、『橙新聞』、2015年9月15日：<http://www.orangenews.hk/topic/system/2015/09/15/010020626.shtml>

51) 「港人申請移民增加大幅増加 為移居美國出奇招」、『大紀元』、2016年10月20日：<http://www.epochtimes.com/b5/16/8/20/n8219789.htm>

ど、香港と中央は違う、中央に香港をコントロールさせてはならないという感情が生じ、香港人意識が強くなっていく。その逆も然りで、香港人意識が強ければ強いほど、中央政府の影響を強く受けている現在の香港政府に対する反感や不満も大きくなる。その結果、もはや香港を抛り所にできないから、別の場所で発展したいとして、移民を選択するのではないかと考えられる。筆者が聞き取りをした会社員(40代、女性)は、「今回の宣誓問題の法解釈で、中央政府の存在感がより大きくなってきたと強く感じている。何人かの知人は、香港が中央政府の影響を受けていることを嫌がって、すでに海外に移住計画を立てている。例えば、海外に不動産を購入したり、子女を海外の大学に進学させて海外の基盤作りをしたりしている。自分も移民できる機会があるなら、真剣に考えたい」と語った<sup>52)</sup>。

香港中文大学の小出雅生兼任講師は、近年の香港にみられる街づくりを中心に発展してきた若い人たちの新たな運動の成果が、今回、「自決派」の朱凱迪氏のトップ当選にみられるように、選挙の結果に反映されたと考察している<sup>53)</sup>。多くの香港人が香港の街づくりに力を注ぐことも、香港人意識の高まりと関連していると考えられる。移民することを選択せずに、香港に残ることを選んだ香港人意識が強い人たちは、香港のことは自分たちで守るという行動に出たり、香港の自決を主張する政党を支持したりするようになっていると考えられる。

### 3. おわりに：若い世代を中心に高まる香港人意識と政治への関心のゆくえ

ジャーナリストの紀碩鳴氏は、今回の選挙を通して、香港は従来の「商業社会」から「民主政治社会」に変容していると述べている。この現象は「オキュパイ・セントラル」および「雨傘運動」以降に顕著になっていることも併せて強調している。紀氏は、これまでの香港社会は、政治に積極的な両端(親中派と反親中派)が小さく、中間部分(沈黙する大多数の市民)が大きいオリーブ形状であったと形容し、現在は、市民の政治に対する関心の高まりによって、このオリーブ形状の香港社会の構図が崩れてきたと表現している<sup>54)</sup>。長期にわたって、香港は経済社会であり、商業主義が重視されてきた。しかし、現在は、多くの市民の政治熱の高まりによって、経済や商業利益よりも政治に関心を持つ人口が増えてきており、従来の価値観にも変容が見られるようになっている。それが今回の選挙結果にも反映されている。

筆者は過去において、香港が世界にアピールできる点を述べてきた<sup>55)</sup>。香港は、中華系住民が人口の大多数を占めてはいるものの、英国植民地であった上、世界の貿易中継地としての歴史も長く、多くの外国人が居住していることから、多民族的な文化や宗教が存在する多民族社会が形成されてきた地域である。そして、香港はこれまで、多民族社会であることを国際社会に対してアピールしてきた。同時に、香港はまた、言論や報道の自由がある地域としても、また民主的な社会の創造を目指してきた地域としても、世界に知られてきたはずだ。近年、中国の経済的な発展によって、特に経済面では中国に差をつけられており、経済的な競争力という点では遜色が見られるものの、上述のような魅力は、完全に損なわれてはいないと筆者は考えている。

しかしながら、今回の選挙後、中央政府の介入により、民意を反映して当選した議員が、民意を無視した形での議員資格取り消しという結末を迎えたことで、民主的な社会を目指してきた香港が受けたダメージは大きいと言えるだろう。若い世代を中心に、多くの香港人が危惧しているのは、特に民主が失われていくことであろう。広く民意を政治や政策に取り入れるためには、影響力がある大きな政治グループが少数あるという状態(従来の形)よりも、より多様な考えを持つ、より多くの政治グループが意見を戦わせるという形の方が、より自由で、より民主的な香港の実現の可能性が高まると筆者は考えている。現在の香港政府は、中央の意向をそのまま実行する側面が強く、香港の状況をいかに中央政府に反映させるかということや、香港のために対話することが不十分な状況にある。そこでカギになるのが、香港社会と中央とのコミュニケーションの重要性であろう。香港政府は現在、中央の影響を大きく受けているが、今後は、香港政府が中央と香港社会との橋渡しの役割を担えるかがどうか肝要である。

52) 会社員(匿名希望)に対する聞き取り。(2016年11月9日、新界大埔にて。)

53) 小出雅生「香港立法会選挙を振り返って」、『人民新聞』(1595号)、2016年10月5日。

54) 紀碩鳴「香港社会的新政治格局」、『超訊』、2016年10月、3頁。

55) 合田美穂「中国・東南アジア関係における香港の役割」、『21世紀東アジア社会学』(創刊号)、日中社会学会、2008年6月等。

今回の全人代の法解釈による議員2名の資格の取り消しをきっかけに、より一層、中央から香港への介入が大きくなっていくと考えられる。そのような状況の下で、「反親中派」、特に従来の民主派政党は、「一国二制度」の下で中央政府に妥協することなく、中央と香港社会の橋渡しが担えるような香港政府を作っていくことに尽力するべきであろう。そういう意味では、「民主派」もまた今後変わっていく必要があると言える。

## 謝辞

本稿は、東京財団の「Views on China」への寄稿文（「香港社会の動きを読み解く——香港立法会選挙の結果を中心に」）を元にして、筆者が、インタビュー、補足説明や具体事例などを加筆したものである。元原稿に対しては、東京財団上席研究員で東京大学大学院の高原明生教授、東京財団政策研究調整ディレクター兼研究員の小原凡司氏に、多くの貴重なアドバイスならびにコメントをいただきました。また、香港事情については、香港中文大学日本研究学科兼任講師の小出雅生氏に多くの情報をいただきました。諸先生方には、心より感謝申し上げます。

## 主要文献

合田美穂「香港社会の動きを読み解く—香港立法会選挙の結果を中心に」、『Views on China』東京財団：<http://www.tkfd.or.jp/research/china/e9mi6k>

その他の参考資料（引用順）

「香港禁書店老老闆 被消失奇案」、『端传媒』：<https://theinitium.com/article/20151110-hongkong-hkbooksellers/>

「香港全民投票與占領中環（特企）」、『中央社』，2014年6月21日：<http://www.cna.com.tw/news/firstnews/201406215001-1.aspx>

「香港基礎データ（外務省ホームページ）」：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hongkong/data.html#02>

「和平占中黄之鋒指20萬人占領交通樞紐創造奇蹟」、『蘋果日報』，2014年12月2日：

<http://hk.apple.nextmedia.com/realtime/news/20141002/52971933>

「八大院校 6,000人罷課集会」、『蘋果日報』，2014年9月30日：<http://hk.apple.nextmedia.com/news/art/20140930/18884515>

「戴耀廷：雨傘運動出現已替代了占中」、『蘋果日報』，2014年12月2日：

<http://hk.apple.nextmedia.com/realtime/news/20141202/53188478>

「中大民調推算120萬人 曾參與占領運動逾半市民指政府應就政改具體讓步」、『蘋果日報』，2014年12月19日：

<http://hk.apple.nextmedia.com/news/art/20141219/18974592>

倉田徹「香港政治キーワード解説「建制派」（体制派、親政府派）」、『香港ポスト』，2011年7月29日：

<http://www.hkpost.com.hk/index2.php?id=1959#.WB15II9OLIU>

紀碩鳴「香港社会的政治格局」、『超訊』，2016年10月，3頁。

陳立諾「梁振英連任失敗 換曾俊華做特首？」、『超訊』，2016年10月。

小出雅生「香港立法会選挙を振り返って」、『人民新聞』（1595号），2016年10月5日。

「香港衆志ホームページ」：<https://www.demosisto.hk/>

「專訪青年新政：我們要重奪香港人的資源」、『852 郵報』，2015年4月4日：

<http://www.post852.com/92615/%e5%b0%88%e8%a8%aa%e9%9d%92%e5%b9%b4%e6%96%b0%e6%94%bf%ef%bc%9a%e6%88%91%e5%80%91%e8%a6%81%e9%87%8d%e5%a5%aa%e9%a6%99%e6%b8%af%e4%ba%ba%e7%9a%84%e8%b3%87%e6%ba%90/>

「青年新政ホームページ」：<http://youngspiration.hk/>

紀碩鳴，王亜娟「專訪：民主党主席劉慧卿 希望北京順守一国兩制的承諾」、『超訊』，2016年10月。

倉田徹「民主派、内部分裂の危機「真の民主派」主張する急進派」、『香港ポスト』，2014年7月4日：

<http://www.hkpost.com.hk/index2.php?id=9325#.V-4cEJlTIV>

李永峰，秦寬「專訪：上海国際問題研究院台港澳研究所研究員張建 本土派才是香港真正的反对派」、『超訊』，2016年10月。

倉田徹「デモ・集会の参加者数が増加 ネット動員で集まる若者たち」、『香港ポスト』，2013年12月6日：

<http://www.hkpost.com.hk/index2.php?id=7711#.WAXmp49OLIX>

李永峰「本土 自決 港独 香港政治新一頁 会重踏西藏覆轍？」、『超訊』，2016年10月。

「激進派爆粗宣誓」、『頭條日報』，2016年9月14日。

「梁君彦：宣誓無効 禁止開會」、『頭條日報』，2016年9月14日。「梁君彦放生梁游激公憤」、『大公報』，2016年10月19日。

「建制派離場抗假誓」、『大公報』，2016年10月20日。

「鄭松泰倒挿国旗區旗 劉國勳促警調查」、『大公報』，2016年10月20日。

「違《基本法》乃大是大非問題 林鄭反对梁游再宣言」、『頭條日報』，2016年10月24日。「建制派：不容四丑再宣誓」、『大公報』，2016年10月19日。

「法律行動無損行政立法關係」、『香港政府新聞網』，2016年10月19日：

[http://www.news.gov.hk/tc/categories/admin/html/2016/10/20161019\\_130810.shtml](http://www.news.gov.hk/tc/categories/admin/html/2016/10/20161019_130810.shtml)

- 「香港宣誓風波：官媒讚褻奪梁頌恆游蕙禎議席「压邪氣」, 『BBC 中文網』: 2016 年 11 月 16 日 :  
[http://www.bbc.com/zhongwen/trad/china/2016/11/161116\\_hongkong\\_legislature\\_row](http://www.bbc.com/zhongwen/trad/china/2016/11/161116_hongkong_legislature_row)
- 「中国人大积法：無效宣誓不得重新安排宣誓」, 『BBC 中文網』, 2016 年 11 月 7 日 :  
[http://www.bbc.com/zhongwen/trad/china/2016/11/161107\\_hk\\_oath\\_npc\\_interpretation](http://www.bbc.com/zhongwen/trad/china/2016/11/161107_hk_oath_npc_interpretation)
- 「人大积法属本港法制重要部分」, 『香港政府新聞網』, 2016 年 11 月 5 日 :  
[http://www.news.gov.hk/tc/categories/admin/html/2016/11/20161105\\_181329.shtml](http://www.news.gov.hk/tc/categories/admin/html/2016/11/20161105_181329.shtml)
- 「香港高等法院：兩名辱國候任議員宣誓無效資格取消」, 『人民網』, 2016 年 11 月 16 日 :  
<http://bj.people.com.cn/BIG5/n2/2016/11/16/c233086-29314932.html>
- 「香港高等法院裁定梁頌恆, 游蕙禎喪失議員資格, 兩人決定就裁決上訴」, 『端傳媒』, 2016 年 11 月 15 日 :  
<https://theinitium.com/article/20161115-dailynews-oath-taking/>
- 合田美穂「新加坡及香港的福建社團及其教育事業的比較研究」, 新加坡亞洲研究学会『亞洲文化』第 31 期, 2007 年 6 月。
- 「RTHK 香港電台ニュース」, 2016 年 11 月 17 日。
- 「梁游玩完 車仔麵店贈興」, 『頭條日報』, 2016 年 11 月 17 日。
- 「的總代表申覆核 促撤八議員資格」, 『星島日報』, 2016 年 11 月 11 日。
- 「市民提覆核 11 議員假誓」, 『大公報』, 2016 年 11 月 15 日。
- 「人大积法途絕港独勢力」, 『亞州週刊』, 2016 年 11 月 20 日。
- 香港大学民意調查計畫 : <https://www.hkupop.hku.hk/chinese/popexpress/ethnic/>
- 「香港再現移民潮 港人走為上策?」, 『橙新聞』, 2015 年 9 月 15 日 :  
<http://www.orangenews.hk/topic/system/2015/09/15/010020626.shtml>
- 「港人申請移民增加大幅增加 為移居美國出奇招」, 『大紀元』, 2016 年 10 月 20 日 :  
<http://www.epochtimes.com/b5/16/8/20/n8219789.htm>
- 合田美穂「中国・東南アジア関係における香港の役割」, 『21 世紀東アジア社会学』(創刊号), 日中社会学会, 2008 年 6 月。



雨傘運動の一場面 (1)  
(2014年10月 筆者撮影)



雨傘運動の一場面 (2)  
(2014年10月 筆者撮影)



香港新界西地区の投票所  
(2016年9月5日 小出雅生氏 撮影)



選挙キャンペーン中の朱凱迪氏  
(2016年7月1日 小出雅生氏 撮影)



当選後の支持者への感謝会での朱凱迪氏  
(2016年9月30日 小出雅生氏 撮影)